石巻復興きずな新聞

第30号

本紙は、石巻市内の仮設住宅および市街地の復興公営住宅向けに発行・配布する無料情報紙です。毎月10日発行。

未来へと歩む雄勝

伝統の春祈祷

「ちょいさ、ちょいさー！」

威勢のいい掛け声に、小気味よい太鼓のリズムと朗々とした篠笛の音が続きます。羽根子（獅子を怒らせる役）とともに二頭の二人立獅子が登場すると、あたりからは小さく歓声が起こりました。激しく舞いながら近づく獅子に、厄を払ってもらおうと頭を差し出す人々。一方、なかには泣き出してしまう小さな子もいます。

二子団地での獅子振り披露には多くの人が訪れた

１月３日、底冷えするような寒さのなか、雄勝地区で伝統の「春祈祷」があり、「胴ばやし獅子振り（獅子舞）」が披露されました。胴ばやし獅子振りは、国の重要無形民俗文化財にも指定される雄勝法印神楽の一演目が起源で、約６００年前、室町時代から続く伝統芸能。毎年１月３日に行なわれる春祈祷では、家内安全や無病息災などを願います。この日は、「雄勝町胴ばやし獅子舞味噌作（みそさく）愛好連」のメンバー約20人が、上雄勝の新山神社でお祓いを受けたあと、味噌作地区や原地区を回りました。

住宅へ入る獅子。多くの住民が獅子を招き入れた

かつては雄勝の各地区から獅子振りのメンバーが新山神社に集まり、その後分散して家々を回ったそうですが、いまも春祈祷の獅子振りを続けているのは味噌作愛好連だけ。味噌作愛好連も震災で装束や笛、太鼓などをすべて流されましたが、日本財団の支援も受けて伝統の灯をつないできました。愛好連の川田徳雄会長（79）は、「少しでも雄勝に元気をと思っていた。支援のおかげで途絶えさせることなく続けてこられた」と話します。

震災後は石巻の仮設住宅などでも公演しており、雄勝町出身でなくとも、ご覧になった方がいらっしゃるかもしれません。

そしてこの日は、雄勝地区出身の住民が多く住む二子団地にも「出張」。50人ほどの観客の前で獅子振りを披露したあと、希望する家々を回って１年の幸せを祈願しました。メンバーによると例年は２～３時間程度で終わる春祈祷ですが、今年は二子団地への出張もあって一日仕事に。日が傾きだした二子団地では、メンバーは白い息を吐きながらもかわるがわる迫力ある演奏と舞を披露しました。ちなみにこの日、本紙編集長の岩元暁子も篠笛担当として初めて獅子振りに加わりました（詳細は３面をご覧ください）。

川田会長は「二子団地への出張は初めてで手探りだったが、喜んでもらえたと思う」と話します。

一年の幸せ、そして雄勝の再興へ。春祈祷の舞は、一歩一歩前へ進む雄勝の姿を象徴しているようにも感じられました。

（きずな新聞　ジョー）

邪気を食べてもらおうと、多くの人が獅子のもとへ

2018年度いしのまき

福祉送迎講習会

全３回の講義で、送迎に必要なことを幅広く学びます。安全な運転と介助を学び、誰もが暮らしやすいまちにするために。皆さま、ぜひご参加ください！

日　時：
第１回　１月19日（土）10：00～16：00
第２回　２月９日（土）10：00～16：00
第３回　３月３日（日）10：00～16：00

※1回のみの受講も可能ですが、全回受講した方には国土交通大臣認定の運転協力者講習修了証を発行します。

場　所：こもれびの降る丘 遊楽館　大会議室

内　容：
・送迎の意義や利用者を理解する
・身体に負担をかけない介助や移乗の方法
・障害者の防災と災害時の対応
・運転技術実習
・リスク管理を学ぶ
・救命救急実習　など

受講料：各回1,500円

主催・問合せ：NPO法人移動支援Rera
（0225-98-5667）

ゆういきるの声～医療・健康・介護～

ヒートショック対策

明けましておめでとうございます。年末年始は夫婦お互いの実家に帰省し、親戚とわいわい過ごしました。子供も、祖父母に会えてとっても嬉しそうで、充実したお正月でした♪　みなさんはどんな年末年始でしたか？

さて、年末年始の寒波以来、底冷えする日が続いています。そこで、今回のテーマは寒い日に特に気を付けたいこと。「ヒートショック」です！

ヒートショックは、温度の変化を感じた身体が体温を保とうとして、血圧が急激に上がり下がりし、脳卒中や心筋梗塞、失神などを起こすこと。例えば、寒い脱衣所で服を脱ぐと、熱を逃がさないよう血管が縮み、血圧が上昇します。直後に熱いお風呂に入ると血管が広がり、今度は血圧が急下降します。この急な変化によって重篤な症状を引き起こしたり、失神して溺れてしまったりするのです。

一番危ないのは、「お風呂」と「トイレ」です。どうしたら防げるのでしょうか。

《「お風呂」の場合》

まずは、次の10項目をやってみましょう。

●早めの時間に入る。遅くなると気温がどんどん下がります。

●蛇口ではなくシャワーでお湯をためる。蒸気が浴室を温めます。

●湯温は38～40℃に。熱いお湯は心臓に負担をかけ、41℃以上になると浴室の事故が増えるとの報告が。

●浴室の床にマットやスノコを置く。足先からの冷えを防ぎます。

●お風呂のふたを開けておく。また、お湯につかる前にシャワーを浴室の壁や床へかけるのも有効です。

●かかり湯をする。まずは手足を温めてからお湯に入ります。

●食後すぐは入らない。食後は血圧が下がりやすいです。1時間はあけましょう。

●お風呂の前後にコップ1杯お水を飲む。汗をかき、脱水状態になるのを防ぎます。

●タオルをお湯につける。皮脂やミネラルでお湯がなめらかになり、身体への負担が減ります。

●湯船から上がるときはゆっくりと。急に立ち上がると血圧が下がります。

《「トイレ」の場合》

一番いいのは、トイレに小型の暖房機を置くことです。しかし、すぐにはできない方も多いと思います。ならば、簡単な方法から！

●便座カバーを付ける。なるべく暖かいものを使い、お尻の冷えを防ぎましょう。

●窓がある場合、厚手のカーテンを付ける。窓からの冷気を遮断します。それでも寒い場合は、夜間はポータブルトイレを温かい部屋で使うのも有効です。

まだまだ寒い日が続きます。ヒートショックにならないよう、ぜひ実践してみてください。

（牡鹿の看護師さとみ）

大川 ～帰れない故郷と新しいまち～

あけましておめでとうございます。私は昨年11月にようやく新居が完成し、7年ぶりに仮設住宅以外の場所で迎えたお正月でした。今回の記事も二子東町内会の会長・藤村充さんにお願いしました。

（阿部良助）

＊＊＊

前回の記事に集会所が建設中であることを書きましたが、その集会所がようやく完成し、1月10日に鍵を受け取りました。2～3月の町内会の設立総会でお披露目になるかと思います。今後、集会所をどんどん活用して、地区のコミュニティが深まるといいなと思います。

まちびらきの話も、少しずつ進んでいます。今のところ、5月の下旬、二子団地の中心にある「中央公園」で行なう予定です。まだ内容は決まっていませんが、各地区の伝統芸能を披露したり、名産品を持ち寄ったりして、さぞ楽しい1日になることと思います。

個人的には将来、夏に3地区合同の盆踊り大会ができたら…と思っています。大川、雄勝、北上、それぞれの地区に太鼓や神楽がありますが、お囃子も演目もそれぞれ異なるので、一緒に合わせることはできません。盆踊りであれば、3地区の人たちが一緒に踊ることができます。各地区の伝統や文化も大切にしながら、これからは二子団地としての伝統も作っていかなくてはなりません。

震災から7年以上が過ぎ、前向きになってきた人が多いと感じます。「二子団地をどんな町にしたいか」と聞くと、とても前向きな答えが聞かれます。それでも、誰一人として震災を忘れたわけではないとも感じます。だからこそ、石巻の人たちが皆「ここに住みたい！」と思うような夢と希望のまち二子団地」にしていかなくてはと思います。

昨年の夏、町内会の班ごとの懇談会を開きました。最初は遠慮がちでしたが、時間が経つにつれて盛り上がり、最後は時間が足りないくらいでした。若い人が住みやすい街に「新しい歴史を作りたい」といった前向きな声も聞かれました。これは町内会や住民の力だけでは成し得ません。二子団地はこれからも多くの人のお世話になっていくのだろうと思います。

何百年前にも津波はあったと思いますが、そのときは他所からの支援などなかったでしょう。今は全国の方々からの支援やボランティアさんがいてくださって、本当にありがたいです。支援に慣れっこになってはいけませんが、これからも多くの方々の力を借りながら、いい街をつくっていきたいです。（二子東町内会　藤村　充）

記者ボランティア募集

石巻復興きずな新聞舎では、より良い紙面を作っていくために、来年度記事を書いてくださる記者ボランティアさんを募集します。きずな新聞の紙面で、定期的に情報発信をしてみませんか？

【期間】２０１９年４月から１年間

【頻度】２～３カ月に１回程度（応相談）

【内容】地域情報（特に雄勝、牡鹿半島。その他の地域も可）、団地情報、レシピ、エッセイなど、きずな新聞の読者が「おもしろい！」「役に立つ！」と思えそうな内容であれば何でもＯＫ！　ぜひ素敵な企画を作ってみてください。

【条件】

・締切を守れること

・きずな新聞の編集方針を尊重していただけること

・無償で引き受けていただけること（取材にかかった経費はこちらで負担できる場合もあるので、ご相談ください）。

・ライター経験は不問

【メリット】

・石巻市内で６０００部発行されているきずな新聞の紙面で情報発信できる

・（企画によっては）取材を通して様々な人に出会い、話を聞くことができる

・定期的に文章を書くことで、文章力が磨かれる

【お断り】

全体のバランスを見て年間の台割を作るため、ご応募いただいた方全員が記者ボランティアになれるわけではありません。あらかじめご了承ください。

【応募方法】メール（kasetsukizuna@gmail.com）またはＦＡＸ（０５０-３４８８-１７０２）にて、①氏名、②電話番号、③メールアドレスまたはＦＡＸ番号、④自己紹介文または志望動機（６００字程度）⑤企画案をお送りください。

【問合せ】石巻復興きずな新聞舎（０９０-６６８６-８３１７）

きずな新聞ボランティア募集！

＜活動内容＞
仮設住宅・復興公営住宅への新聞配布、新聞の記事執筆・編集、データ入力、事務作業など

＜活動日程＞
希望に合わせて活動できます。月1回から参加可。月3日以上活動できる方には交通費補助（1日1000円）あり。

＜問合せ・申込み＞
石巻復興きずな新聞舎
駅前北通り1-5-3
090-6686-8317（岩元）

vol.10 十五浜便り

～雄勝の過去・現在・未来を語ろう～

雄勝の過去・現在・未来と雄勝への愛を語るリレー連載、10回目の今回は本紙編集長・岩元暁子です。

＊＊＊

２０１１年12月、私が「仮設きずな新聞」の記者になることが決まった頃に出会ったのが、雄勝で獅子振りをやっていた佐藤均さんだ。「獅子も太鼓も流されたが、今度隣の部落から獅子を借りて振るんだ」。その瞳の輝きに引き込まれ、気付けば取材を申し込んでいた。

初めての取材。ドキドキしながら雄勝に向かった。「皆仮設暮らし。集まって練習できる場所もないので、ぶっつけ本番。それでも、雄勝のためにと集まった」。佐藤さんの表情には気合いがみなぎっていた。

１００人ほどの観客が見守る中、おはやしがスタート。徐々に激しさを増す2頭の獅子の舞をファインダー越しに見ながら、私は何か熱いものを感じた。腹に響く太鼓と軽快な笛の音、ぶっつけ本番とは思えない息のあった獅子の動き、揃いの法被も流されて衣装はマチマチだけれど、皆の心は一つだった。

あれから7年。私は今年、佐藤さんが所属する雄勝町胴ばやし獅子舞味噌作愛好連の皆さんと共に、篠笛奏者として春祈祷に参加する幸運を得た。中学の頃からフルートをやっていた私は、篠笛の音が難なく出せたのだ。そのことを知った佐藤さんは7年前、愛好連で篠笛を吹かないかと私を誘ってくれた。内心うれしかったが、私は「伝統芸能は雄勝の人がやってこそ意味がある」と思い留まった。

しかし、佐藤さんはその後も何度となく声をかけ続けてくれた。そしていつしか思うようになった。「伝統芸能の担い手が少なくなる中、私のようなよそ者でも伝承の担い手になる意味があるのでは」。西洋音楽と違い、おはやしには楽譜が存在しない。生きた人間にしか、このおはやしを後世に伝えることができないのだ。

長年、西洋音楽をやってきた私には、楽譜のないおはやしを覚えるのは至難だった。途中諦めかけながらも、篠笛奏者の方に何時間も練習に付き合ってもらい、当日を迎えた。玄関先で目に涙を浮かべながら獅子を見つめる住民の方々を見て、「やって良かったのだ」と思えた。

いつか「おはやしを吹きたい」という若者が現れたら、教えられるようになりたいと思う。連綿と受け継がれてきた地域の文化を次世代につなぐ担い手になれたら本望だ。

＊＊＊

いわもと・あきこ／横浜出身。２０１１年４月、ボランティアとして来石。泥かき、避難所支援、工場支援などに従事したのち、仮設きずな新聞に携わる。

かわら版
石巻まちなか情報局
http://www.ishinomakimatinaka.com/ Vol.73

あけましておめでとうございます。街づくりまんぼうの苅谷です。本年もよろしくお願いします！　いよいよ平成最後の年。今年も良い年にしたいですね！

ところで皆さん、最近街なかへは行かれましたか？

最近は初売りをするお店も少なくなり、寂しい感じがしますが、そんな中、いしのまき元気いちばでは2日から初売りがあり、お買い得な商品を求めて多くの方が訪れていました。

網地島ライン 中央発着所オープン！

さて、ご存知の方も多いかもしれませんが、昨年12月に網地島ライン（田代島・網地島に向かう船）の発着所が旧北上川沿い、元気いちば南にオープンしました。中央発着所を船が出るのは、毎日9時、12時、15時半の3回。島へ行く機会はあまりないかもしれませんが、街の中に船がとまっている光景は、いかにも石巻という感じがして私はとてもお気に入りです。懐かしいと思う方もいらっしゃるでしょうか。なお、門脇の発着所でも引き続き乗降できます。

▲中央発着所で停泊するブルーライナー

工事の完了まで もう少し

新しくオープンした発着所の両横では、まだ堤防工事や内海橋の架け替え工事が行われています。街なかでもマンションの工事が進んでいます。元気いちばの前の堤防は、今年の夏には完成し、2階の食堂のデッキとつながるのだとか。またひとつ、新しい景色が生まれます。川開きまつりの花火は、また違ったところから見ることができるかもしれませんね。

（まんぼう　かりや）

●○●お知らせコーナー●○●

◆広告募集

求人、セール、イベントなど、告知・宣伝・情報発信したいことがあるときは、ぜひ石巻復興きずな新聞の広告掲載をご利用ください。掲載費は1回5000円～（内容により掲載できない場合もあります）。

◆購読会員について

自力再建、防災集団移転等により仮設住宅から出られる方で、「石巻復興きずな新聞を引き続き読みたい！」という方のために、「購読会員」という制度を作りました。年会費2000円で、毎月新聞を郵送します。希望される方は０９０－６６８６－８３１７まで。

◆活動資金へのご協力のお願い

石巻復興きずな新聞は、皆さまからの寄付によって支えられています。一日でも長く活動が続けられるよう、ご協力お願いいたします。

◎ゆうちょ銀行
　八チイチ八チ店（８１８店）
　普通　３８６４７４８
　石巻復興きずな新聞舎

◎郵便振替口座
　１８１４０-３８６４７４８１
　イシノマキフッコウキズナシンブンシャ

◆ご支援ありがとうございます

◎久野信一様（宮城県石巻市）

※五十音順

編集後記

皆様、新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

皆さんはどんなお正月でしたか？私は石巻ではテレビを持っていないので、東京で年越しをしました。大晦日の夜は夫とテレビのチャンネル権争い。私は紅白歌合戦派なのですが、夫は総合格闘技やボクシングが見たいそうで。もはや毎年の恒例行事です。１月２日には、寒がる夫をなだめすかして一緒に石巻に戻り、３日から仕事始め（取材）でした。石巻のお正月も少し感じることができて、良かったです。

今年前半の目標は、早寝早起きと適度な運動。今月から毎朝５時半に起きて、30分歩いて日和山に登り、６時半からの日和山体操に参加することにしました。徐々に明るくなっていく空を見ていると、何だか得した気持ちになりますね。早寝早起き、オススメです。　（編集長 あき）

■石巻復興きずな新聞とは…　2011年10月～2016年3月まで、ピースボート災害ボランティアセンターが石巻市内の仮設住宅向けに発行・配布してきた無料情報紙「仮設きずな新聞」の後継紙。「最後のひとりが仮設住宅を出るまで」を目標に、2016年6月創刊。市内全仮設住宅および市街地の復興公営住宅に無料で配布。毎月10日、約6000部発行。

■石巻復興きずな新聞は以下の場所でも手に入ります。
ＩＲＯＲＩ石巻／雄勝店こ屋商店街／かめ七呉服店／からころステーション／川の上・百俵館／新蛇田第一集会所／道の駅「上品の郷」

■石巻復興きずな新聞舎
〒986-0813　石巻市駅前北通り1-5-3　TEL:090-6686-8317
kasetsukizuna@gmail.com　/　www.kizuna-shinbun.org

GOOD DESIGN AWARD 2018

■発行元　石巻復興きずな新聞舎
■編集長　岩元暁子
■副編集長　川口　稜
■デザイン　矢野瑛子／妙本咲季
■記事執筆　苅谷智大／野津里美　藤村　充
■協　力　石巻専修大学関根ゼミ／石巻ＮＯＴＥ／川の上・百俵館／震災こころのケア・ネットワークみやぎ／包括ケアセンター／ピースボート災害ボランティアセンター／ゆいいきる／街づくりまんぼう
■助　成　宮城県「みやぎ地域復興支援助成金」